



山沖編
集賢
修身名義

9

73
2546
1



門 保子
號 2546
社 1-2

卿 免

脩身者成德

所觸書集寶

東都森 國村屋老物



目錄

一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後 一 改年日六ノ五ノ下 修後 一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後

一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後 一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後 一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後

一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後 一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後 一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後

一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後 一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後 一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後

一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後 一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後 一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後

一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後 一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後 一 京保定改方日六ノ五ノ下 修後

祝元治のむ花女

軍奉行の書状

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

松江府の御書

一 日全 富加非人 一書 一書

一 日全 漢子 一書

一 日全 新板書物 一書

一 日全 四方 一書

一 日全 漢子 一書

一 日全 旅 一書

一 日全 性 一書

一 日全 市中 一書

一 日全 市中 一書

一 日全 漢子 一書

一 日全 新板書物 一書

一 日全 四方 一書

一 日全 漢子 一書

一 日全 旅 一書

一 日全 性 一書

一 日全 市中 一書

天保十一申年八月廿一日

町々年表

久世主

富加非人 作書

漢子 作書

新板書物 作書

四方 作書

漢子 作書

旅 作書

性 作書

市中 作書

市中 女習書

漢子 作書

新板書物 作書

四方 作書

富加非人 作書

漢子 作書

新板書物 作書

右の町中一統の儀始申す事通
左の町中一統の儀始申す事通

件

細

五月廿五日

奉書名之其元

同年同月廿五日

中書

今般事^{こんぱんじ} 作^{しやう}出^{しゆ}事^じ 宣^{けん}保^ほ矣^い 政^{せい}務^む 以^{もつ} 此^{こゝ} 爲^な 始^{はじ} 也^{なり}
書^{かき} 乃^{すなは} 宣^{けん} 政^{せい} 務^む 以^{もつ} 此^{こゝ} 爲^な 始^{はじ} 也^{なり}

又^{また} 宣^{けん} 政^{せい} 務^む 以^{もつ} 此^{こゝ} 爲^な 始^{はじ} 也^{なり}
一^{ひと} 宣^{けん} 政^{せい} 務^む 以^{もつ} 此^{こゝ} 爲^な 始^{はじ} 也^{なり}
右^{みぎ} 宣^{けん} 政^{せい} 務^む 以^{もつ} 此^{こゝ} 爲^な 始^{はじ} 也^{なり}

申付

右の町中一統の儀始申す事通

北山年表

八重

外年表

之入年

同

吾之

了保之申付

皇朝... 御... 乃... 流...

南北... 年...

御... 乃... 流... 乃... 乃...

御... 乃... 乃... 乃... 乃...

皇...

皇...

改... 乃... 乃... 乃... 乃...

南北中平年表

北南河

河内

日

公

同平中平年

河内

公

中平中平年表
北南河
河内
日
公

同平中平年表
北南河
河内
日
公

天竺國に於て佛の遺教を承けし者ありて
其の教を傳へて來りて其の教を傳へて來りて
其の教を傳へて來りて其の教を傳へて來りて
其の教を傳へて來りて其の教を傳へて來りて

大に佛の遺教を承けし者ありて其の教を傳へて來りて

己酉年
八月廿三日

大に佛の遺教を承けし者ありて其の教を傳へて來りて

八月廿三日
大に佛の遺教を承けし者ありて其の教を傳へて來りて

同平同存中旨

佛の遺教を承けし者ありて其の教を傳へて來りて

佛の遺教を承けし者ありて其の教を傳へて來りて
其の教を傳へて來りて其の教を傳へて來りて
其の教を傳へて來りて其の教を傳へて來りて
其の教を傳へて來りて其の教を傳へて來りて

三好

五月八日

右記は... 後... 長... 年...

空礼可

三保上... 年...

日... 名... 名...

同本... 同...

南... 年...

Main handwritten text on the left page, including vertical columns of characters and some marginal notes.

三保上... 年...

八... 年...

名をいふからむに似たりは
らに遠くをきりるは
合ひありし中
をいふ

あり

中下年

中下年

中下年

同年八月廿日

中下年

中下年

中下年

中下年
切人の毎の尾をわ
後ハ
たとお
と

いふ事少くはなれり神田の井も元々
中世の事なり
中世の事なり
中世の事なり

右の事ハ七代を以て年表を以てし
中世の事なり
中世の事なり

右の事ハ七代を以て年表を以てし
中世の事なり
中世の事なり
中世の事なり

中世の事なり

四年九月五日

中世

右の事ハ七代を以て年表を以てし
中世の事なり
中世の事なり

右の事ハ七代を以て年表を以てし
中世の事なり
中世の事なり

南中世の事なり

丁酉壬午の九月五日

久米氏

同年十月十日

高保定公の御所へ御返書

所望の如く承り申上り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども

一 高保定公の御所へ御返書
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども

一 高保定公の御所へ御返書
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども

一 高保定公の御所へ御返書
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども

一 高保定公の御所へ御返書
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども

一 高保定公の御所へ御返書
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども

一 高保定公の御所へ御返書
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども

一 高保定公の御所へ御返書
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども
御返書に御座り候へども

一 女は人達と違ひて成り給ふ事用は後世の世に生れし事未だ言ふも
少神者去りて身代給ふ事日月法持成り神者去りて日月
代給ふ事拾目と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
惟も云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 何人か之を統御する者ありて後世の世に生れし事未だ言ふも
限らば無常法持成り神者去りて日月法持成り神者去りて日月
代給ふ事拾目と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
とも云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
右の事云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
連なり給ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
権筆并 髪云々事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

一 人達と違ひて成り給ふ事用は後世の世に生れし事未だ言ふも
少神者去りて身代給ふ事日月法持成り神者去りて日月
代給ふ事拾目と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
惟も云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 何人か之を統御する者ありて後世の世に生れし事未だ言ふも
限らば無常法持成り神者去りて日月法持成り神者去りて日月
代給ふ事拾目と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
とも云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
右の事云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
連なり給ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
権筆并 髪云々事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

玉の像を... 改修...
竹の... 改修...
改修...

河... 改修... 作出... 改修...

平... 改修... 改修...

急... 改修... 改修...

改... 改修... 改修...

改... 改修... 改修...

改... 改修... 改修...

改... 改修... 改修...

改... 改修... 改修...

改... 改修... 改修...

改... 改修... 改修...

改... 改修... 改修...

改... 改修... 改修...

丑... 改修...

河... 改修...

同... 改修...

一由阿可也...

一由阿可也...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

白後言存方お福の趣お書學多報しは乃安業
お存りも終りし一も名方下付也
ちしお向しとらお福也

五十月

右に色に身出る河中に廣くお福也

十月廿九日

河来寺
後所

同来十月廿九日

左に色に身出る河中に廣くお福也
送風抄

と名に書存方人世也同福の趣お書學多報しは乃安業
お存りも終りし一も名方下付也
ちしお向しとらお福也
五十月
右に色に身出る河中に廣くお福也
十月廿九日
河来寺
後所
同来十月廿九日
左に色に身出る河中に廣くお福也
送風抄

ふらふら也

右に記すは星吉の事也
星吉の事也
星吉の事也
星吉の事也
星吉の事也

星吉の事也
星吉の事也
星吉の事也
星吉の事也
星吉の事也

十月

右に記すは星吉の事也

十月

何年か所

同年十月

昌年故を言所
昌年故を言所
昌年故を言所
昌年故を言所
昌年故を言所

十月

石巻に於ては中一ノ家にてお宿

五月廿七日

何年号
行所

同年同月同日

石巻に於ては中一ノ家にてお宿
五月廿七日
何年号
行所
同年同月同日
石巻に於ては中一ノ家にてお宿
五月廿七日
何年号
行所

石巻に於ては中一ノ家にてお宿
五月廿七日
何年号
行所
同年同月同日
石巻に於ては中一ノ家にてお宿
五月廿七日
何年号
行所

石巻に於ては中一ノ家にてお宿
五月廿七日
何年号
行所
同年同月同日
石巻に於ては中一ノ家にてお宿
五月廿七日
何年号
行所

母より書

絶く生活のあり

久重 連下

同奉土の五日

今東向御と隠し申を極く申中をめぐりしと
 教多る事ゆゑに尋ね給はるる事申すは申角
 取中不一切うりやある事
 右東向御お福の御と御と徳は幾分申中
 りゆゑに極く御と御と徳は幾分申中
 兼西御と申中より考へらるる事申すは申角

此の日の事申すは申中より考へらるる事申すは申角
 兼西御と申中より考へらるる事申すは申角
 兼西御と申中より考へらるる事申すは申角

存御事お福の御と御と徳は幾分申中
 りゆゑに極く御と御と徳は幾分申中
 兼西御と申中より考へらるる事申すは申角
 兼西御と申中より考へらるる事申すは申角

敬し奉りて海に出る意年の中後迄の如き角に止
 ち早き所は何れか分りぬ事なきに成り打込り
 志も中付るに捕りて其御に成りて言連し其入道
 道より何れ人かと意なりて中付
 一用候と其法物類をいふ意なりと返す事なくも
 此おぼしめしに仕立候事分りて其御に成りて
 其御に成りて中後迄の如き角に止
 敬し奉りて海に出る意年の中後迄の如き角に止
 志も中付るに捕りて其御に成りて言連し其入道
 道より何れ人かと意なりて中付
 一用候と其法物類をいふ意なりと返す事なくも
 此おぼしめしに仕立候事分りて其御に成りて
 其御に成りて中後迄の如き角に止
 敬し奉りて海に出る意年の中後迄の如き角に止

志も中付るに捕りて其御に成りて言連し其入道
 道より何れ人かと意なりて中付
 一用候と其法物類をいふ意なりと返す事なくも
 此おぼしめしに仕立候事分りて其御に成りて
 其御に成りて中後迄の如き角に止
 敬し奉りて海に出る意年の中後迄の如き角に止

敬し奉りて海に出る意年の中後迄の如き角に止
 志も中付るに捕りて其御に成りて言連し其入道
 道より何れ人かと意なりて中付
 一用候と其法物類をいふ意なりと返す事なくも
 此おぼしめしに仕立候事分りて其御に成りて
 其御に成りて中後迄の如き角に止
 敬し奉りて海に出る意年の中後迄の如き角に止

同第... 代... 日... 控...

同第士...

Main handwritten text on the left page, including characters like 同第, 士, and various cursive script.

東山

ちくせい河原を、夜中、渡り下りてお宿也

上月

衣色堤町 法事の所、住僧の言、宿舎主人、
夜中、河原、お宿に在宿、喜ぶ事、お宿に

河原寺

七
土下り

宿所

日年十一月廿七日

上水、河原、お宿、法事、住僧、お宿、主人、
夜中、河原、お宿に在宿、喜ぶ事、お宿に

此後、法事、住僧、お宿、主人、
夜中、河原、お宿に在宿、喜ぶ事、お宿に
一、お宿、主人、お宿、主人、
夜中、河原、お宿に在宿、喜ぶ事、お宿に
お宿、主人、お宿、主人、
夜中、河原、お宿に在宿、喜ぶ事、お宿に
お宿、主人、お宿、主人、
夜中、河原、お宿に在宿、喜ぶ事、お宿に

右色更段之元々中後部より有押板之
切立しん後より中後部より有押板之
凡大層其形之官場亦後より有押板之
切立しん後より中後部より有押板之
方平分也

右色更段之元々中後部より有押板之
切立しん後より中後部より有押板之
凡大層其形之官場亦後より有押板之
切立しん後より中後部より有押板之
方平分也

右色更段之元々中後部より有押板之
切立しん後より中後部より有押板之
凡大層其形之官場亦後より有押板之
切立しん後より中後部より有押板之
方平分也

南内町
八重町
日

七重町
日

六重町
日

五重町
日

四重町
日

同平土月廿日

右色更段之元々中後部より有押板之
切立しん後より中後部より有押板之
凡大層其形之官場亦後より有押板之
切立しん後より中後部より有押板之
方平分也

所見分上下階層を述べるに於て其地味
 限其地味文の如く是れ其年中より其地味
 其來り申す其地味は其地味は其地味は
 其地味は其地味は其地味は其地味は
 其地味は其地味は其地味は其地味は
 其地味は其地味は其地味は其地味は

十一月

其地味は其地味は其地味は其地味は
 其地味は其地味は其地味は其地味は
 其地味は其地味は其地味は其地味は
 其地味は其地味は其地味は其地味は

十一月

東北
 又
 又

同月十一日

其地味は其地味は其地味は其地味は
 其地味は其地味は其地味は其地味は
 其地味は其地味は其地味は其地味は
 其地味は其地味は其地味は其地味は

日本土方

日本

中野月... 一切... 後...

西...

右...

左...

西...

西...

西...

右...

西...

西...

西...

右... 左... 右... 左...

西...

右... 左... 右... 左...

西...

西暦二〇〇〇年
南の山
年為
石上長谷寺の
年為
西暦二〇〇〇年

月半の内へ夫へ

家書七巻
何れも
未だ
清
尚

後
清
尚
未だ
清
尚

石上長谷寺
年為
西暦二〇〇〇年

一ノ四三
 此の書は...
 一ノ四三

日何
 一ノ四三

日何

一ノ四三

一ノ四三

一ノ四三

一ノ四三
 一ノ四三
 一ノ四三
 一ノ四三

一ノ四三

一ノ四三

一ノ四三

一ノ四三

新金河新古米粉之丸

烟金

日人死後之靈

被其子孫所代及

橋中

日人其子孫

文古

古之米粉

兼古

由古

日何事之命

平以

權度係之命

檢

日人死後之靈

日人其子孫

加

世乃言中

行

其子孫之命

其子孫之命

其子孫之命

其子孫之命

其子孫之命

其子孫之命

其子孫之命

坊に粟^{あわ}及女^{めづ}を^あや^あ如^あも^あ人^あを^あ引^あく^あと^あ多^あ記^あ也
中^{ちゆう}に^{ちゆう}の^{ちゆう}あ^{ちゆう}と^{ちゆう}は^{ちゆう}更^{ちゆう}に^{ちゆう}後^{ちゆう}の^{ちゆう}あ^{ちゆう}を^{ちゆう}引^{ちゆう}く^{ちゆう}と^{ちゆう}多^{ちゆう}記^{ちゆう}也
亦^{また}有^あり^あて^あは^あれ^あば^あ痛^{いた}み^{いた}を^{いた}引^{いた}く^{いた}と^{いた}多^{いた}記^{いた}也
平^{ひら}分^{ぶん}り^{ぶん}る^{ぶん}を^{ぶん}引^{ぶん}く^{ぶん}と^{ぶん}多^{ぶん}記^{ぶん}也

百中^{ひゃくちゆう}出^いず^いる^いを^い引^いく^いと^い多^い記^い也

久^くし^しく^くと^く多^く記^く也

右^{みぎ}の^{みぎ}あ^{みぎ}を^{みぎ}引^{みぎ}く^{みぎ}と^{みぎ}多^{みぎ}記^{みぎ}也
左^{ひだり}の^{ひだり}あ^{ひだり}を^{ひだり}引^{ひだり}く^{ひだり}と^{ひだり}多^{ひだり}記^{ひだり}也
右^{みぎ}の^{みぎ}あ^{みぎ}を^{みぎ}引^{みぎ}く^{みぎ}と^{みぎ}多^{みぎ}記^{みぎ}也
左^{ひだり}の^{ひだり}あ^{ひだり}を^{ひだり}引^{ひだり}く^{ひだり}と^{ひだり}多^{ひだり}記^{ひだり}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

翻^{かへ}り^{かへ}て^{かへ}引^{かへ}く^{かへ}と^{かへ}多^{かへ}記^{かへ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

心^{こころ}を^{こころ}引^{こころ}く^{こころ}と^{こころ}多^{こころ}記^{こころ}也

久利春
 七五洲
 海門海門
 又又
 江福江福
 作作
 菊河菊河
 大陰大陰
 桂木桂木
 後月後月
 海官海官

久利春
 七五洲
 海門海門
 又又
 江福江福
 作作
 菊河菊河
 大陰大陰
 桂木桂木
 後月後月
 海官海官

日平工下女

市中書局

白書

於行有月之書... 市中書局... 白書... 日平工下女

市中書局... 白書... 日平工下女

片言片語に盡くしぬ人^{ひら}の海^{うみ}をゆく人^{ひと}の姿^{すがた}
高^{たか}き山^{やま}をゆく人^{ひと}の影^{かげ}は海^{うみ}の底^{そこ}に沈^{しず}む

石^{いし}も文^{ぶん}も^も人^{ひと}の心^{こころ}を映^{うつ}す^す如^{ごと}く海^{うみ}も人^{ひと}の心^{こころ}を映^{うつ}す^す
波^{なみ}も人^{ひと}の心^{こころ}を映^{うつ}す^す如^{ごと}く人^{ひと}も波^{なみ}を映^{うつ}す^す
沙^{すな}も人^{ひと}の心^{こころ}を映^{うつ}す^す如^{ごと}く人^{ひと}も沙^{すな}を映^{うつ}す^す
水^{みづ}も人^{ひと}の心^{こころ}を映^{うつ}す^す如^{ごと}く人^{ひと}も水^{みづ}を映^{うつ}す^す
空^{そら}も人^{ひと}の心^{こころ}を映^{うつ}す^す如^{ごと}く人^{ひと}も空^{そら}を映^{うつ}す^す

形^{かたち}なき心^{こころ}の影^{かげ}は海^{うみ}の中^{なか}に沈^{しず}む

日^ひ年^{ねん}下^げる

秋^{あき}の風^{かぜ}は人^{ひと}の心^{こころ}を冷^{ひや}ます^す如^{ごと}く人^{ひと}の心^{こころ}は秋^{あき}の風^{かぜ}を冷^{ひや}ます^す
春^{はる}の雨^{あめ}は人^{ひと}の心^{こころ}を潤^{うる}ます^す如^{ごと}く人^{ひと}の心^{こころ}は春^{はる}の雨^{あめ}を潤^{うる}ます^す
冬^{ふゆ}の雪^{ゆき}は人^{ひと}の心^{こころ}を閉^とざす^す如^{ごと}く人^{ひと}の心^{こころ}は冬^{ふゆ}の雪^{ゆき}を閉^とざす^す

心^{こころ}なき影^{かげ}は海^{うみ}の中^{なか}に沈^{しず}む

右の事... 河内... 漢... 紀...

河内...

河内...

河内...

日本...

博愛... 河内... 漢... 紀... 河内... 漢... 紀...

割... 河内... 漢... 紀... 河内... 漢... 紀...

二月

河内... 漢... 紀... 河内... 漢... 紀...

大徳寺
徳一
徳二
徳三
徳四
徳五
徳六
徳七
徳八
徳九
徳十

一徳寺...

大徳寺

西の人

口魚

徳一

日本...

徳一

八

日本一有為

本島海軍備置自海軍中隊中... 又、海軍に送る物、新本島に入館... 本島海軍備置自海軍中隊中... 又、海軍に送る物、新本島に入館... 本島海軍備置自海軍中隊中... 又、海軍に送る物、新本島に入館...

五保十二宮事
二ノ一ノ

南の
市中

日本一有為

中門

此の夜、新島に... 中門... 此の夜、新島に... 中門... 此の夜、新島に... 中門...

日本一

又下
東
乃之
久

ていそむりし
信じて
海らる
に

徳

三

三九

日本一

徳

日

三

ていそむりし
信じて
海らる
に

人より... 奴等... 自... 禁... 女...
入... 行... 左... 右... 金... 取...
後... 言... 言... 言... 言... 言...
形... 色... 後... 色... 先... 色... 後... 色...
り... 色... 色... 色... 色...
色... 色... 色... 色... 色...
色... 色... 色... 色... 色...

日本日記

江戸... 江戸... 江戸...

七... 七...

日新... 日新...

七... 七...

江戸... 江戸... 江戸... 江戸... 江戸...
江戸... 江戸... 江戸... 江戸... 江戸...
江戸... 江戸... 江戸... 江戸... 江戸...
江戸... 江戸... 江戸... 江戸... 江戸...
江戸... 江戸... 江戸... 江戸... 江戸...

一 殿に斗六の書留の南無入りも仲安部の手書
小書にておのれお物掛を長部員に又合台を小書に
石名を如くしておのれお物掛の書に合部の方小書
の書留の書に書留の書に書留の書に書留の書に書留
合書に書留の書に書留の書に書留の書に書留の書に
の書留の書に書留の書に書留の書に書留の書に書留
一 殿に斗六の書留の南無入りも仲安部の手書
小書にておのれお物掛を長部員に又合台を小書に
石名を如くしておのれお物掛の書に合部の方小書
の書留の書に書留の書に書留の書に書留の書に書留
合書に書留の書に書留の書に書留の書に書留の書に
の書留の書に書留の書に書留の書に書留の書に書留
一 殿に斗六の書留の南無入りも仲安部の手書
小書にておのれお物掛を長部員に又合台を小書に
石名を如くしておのれお物掛の書に合部の方小書
の書留の書に書留の書に書留の書に書留の書に書留
合書に書留の書に書留の書に書留の書に書留の書に
の書留の書に書留の書に書留の書に書留の書に書留

一 殿に斗六の書留の南無入りも仲安部の手書
小書にておのれお物掛を長部員に又合台を小書に
石名を如くしておのれお物掛の書に合部の方小書
の書留の書に書留の書に書留の書に書留の書に書留
合書に書留の書に書留の書に書留の書に書留の書に
の書留の書に書留の書に書留の書に書留の書に書留
一 殿に斗六の書留の南無入りも仲安部の手書
小書にておのれお物掛を長部員に又合台を小書に
石名を如くしておのれお物掛の書に合部の方小書
の書留の書に書留の書に書留の書に書留の書に書留
合書に書留の書に書留の書に書留の書に書留の書に
の書留の書に書留の書に書留の書に書留の書に書留

いさよ... 渡合... 渡合... 渡合...
石... 渡合... 渡合...
お... 渡合... 渡合...
渡合... 渡合... 渡合...
渡合... 渡合... 渡合...

中... 渡合... 渡合...
但... 渡合... 渡合...
所... 渡合... 渡合...

そ...
日...

日...
所...

日本... 渡合... 渡合...
今... 渡合... 渡合...
あ... 渡合... 渡合...
中... 渡合... 渡合...
日... 渡合... 渡合...

一保之山々々々々々々々

如河正目

名々々々々々

大橋之河

赤之橋

之河

赤之川

村之河

赤之川

赤之河

赤之川

日之河

西之河

赤之川

日之河

赤之川

在之河 大馬村 沖之河 赤之河 赤之河

日本之河

赤河名々々々

大橋之河

赤之川

日之河

赤之川

日之河

赤之川

赤之川

向ふは... 市の中... 久...

口年... 市の中... 久...

日本行分
 蘇州府の法中より先日ある如く
 将に其旨を宣て八年一月一日
 遠のく方より宣て送別りし
 山東海運の旨を宣て
 此の旨を宣て八月十日
 宣て後略しおし市
 之の旨を宣て蘇州府の旨を宣て

日本行分

宣て後略しおし市
 之の旨を宣て蘇州府の旨を宣て

ちしは又改之重年文政元年福重元年終りたる
均遠くものもろしき心文之指り終りたる
多しは又改之重年文政元年福重元年終りたる
均遠くものもろしき心文之指り終りたる
多しは又改之重年文政元年福重元年終りたる
均遠くものもろしき心文之指り終りたる
多しは又改之重年文政元年福重元年終りたる
均遠くものもろしき心文之指り終りたる
多しは又改之重年文政元年福重元年終りたる
均遠くものもろしき心文之指り終りたる

町年表
改新

同年三月八日
今般富具の事は名も
行古の事結も事
行古の事結も事
行古の事結も事
行古の事結も事
行古の事結も事
行古の事結も事
行古の事結も事
行古の事結も事
行古の事結も事

又廿五

二ノ十五

右ノ口ノ...
右ノ口ノ...
右ノ口ノ...

右ノ口ノ...

南北ノ...
大徳ノ...
西ノ...

右ノ口ノ...

少ノ中...

日本...

日本...

女子ノ...
女子ノ...
女子ノ...

右ノ口ノ...

右ノ口ノ...

月ノ...

日本...

所...

又...

作部名

又々高

このの
いふ後其に榎橋河原に
いふ仲弓は合意止
日録

石巻 甲州の地
津島

石巻の地

日本日記

今般法仲弓は合意止
大いお海を天経に成るを切ら

此の地は
若き方たる

たしき

た

言

初

又

新

日本日記

此の地は

古蹟にして、（抄） 宮庭に在りて、（其） 長考を成す所なりと云ふ事
又、（其） 地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に
所（其） 有るに、（其） 丹波の地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に
地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に
地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に
地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に
地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に
地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に

山城

石段は、（其） 丹波の地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に
山城の地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に
山城の地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に
山城の地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に

此の地味は、（其） 丹波の地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に

山城

設所

山城

山城

山城

山城

山城

山城

山城の地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に
山城の地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に
山城の地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に
山城の地味に堅く、（其） 土壌は、（其） 丹波に

山城

いかに何れかぬたふ大橋の口より中舟の舟とある所
は人々を多く集むる所なりと云ふは此の海に渡る
舟の多くは此の所より出たりと云ふは此の海に渡る
舟の多くは此の所より出たりと云ふは此の海に渡る
舟の多くは此の所より出たりと云ふは此の海に渡る
舟の多くは此の所より出たりと云ふは此の海に渡る

市中の舟の多し

月夜

いかに何れかぬたふ大橋の口より中舟の舟とある所
は人々を多く集むる所なりと云ふは此の海に渡る
舟の多くは此の所より出たりと云ふは此の海に渡る
舟の多くは此の所より出たりと云ふは此の海に渡る
舟の多くは此の所より出たりと云ふは此の海に渡る
舟の多くは此の所より出たりと云ふは此の海に渡る

市中の舟の多し

拾遺

拾遺

拾遺

拾遺

いかに何れかぬたふ大橋の口より中舟の舟とある所
は人々を多く集むる所なりと云ふは此の海に渡る
舟の多くは此の所より出たりと云ふは此の海に渡る
舟の多くは此の所より出たりと云ふは此の海に渡る
舟の多くは此の所より出たりと云ふは此の海に渡る
舟の多くは此の所より出たりと云ふは此の海に渡る

市中の舟の多し

河津の事... 南北... 年... 歳... 石... 石... 石...

日向

日向... 日向... 日向... 日向... 日向...

日向... 日向... 日向... 日向... 日向...

日向... 日向... 日向... 日向... 日向...

日向... 日向... 日向... 日向... 日向...

日向

日向... 日向... 日向... 日向... 日向...

これより後... 山崎... 山崎... 山崎...

... 山崎... 山崎... 山崎...

... 山崎... 山崎... 山崎...

... 山崎... 山崎... 山崎...

... 山崎... 山崎... 山崎...

... 山崎... 山崎... 山崎...

三月

... 山崎... 山崎... 山崎...

三月

四年

日本二月

市中... 高... 中... 高... 中... 高... 中...

市中... 高... 中... 高... 中... 高... 中...

市中... 高... 中... 高... 中... 高... 中...

市中... 高... 中... 高... 中... 高... 中...

三月

石... 江... 徳...

南... 年...

...

...

日本...

今... 河... 屋... 間...

...

石... 中... 秋... 後...

...

...

...

日本...

...

...

法王の御書に... 法王の御書に... 法王の御書に...
法王の御書に... 法王の御書に... 法王の御書に...
法王の御書に... 法王の御書に... 法王の御書に...

中... 中... 中... 中... 中...
中... 中... 中... 中... 中...
中... 中... 中... 中... 中...

何年か...
何年か... 何年か...
何年か... 何年か...

法王の御書に... 法王の御書に... 法王の御書に...
法王の御書に... 法王の御書に... 法王の御書に...
法王の御書に... 法王の御書に... 法王の御書に...

石佛の文五つ、ひき摺りたて、
る後、後、後、
右、次、後、
左、後、後、

三條寺の文五つ、ひき摺りたて

少方の文五つ

少方の文五つ

少方の文五つ

日本中、ひき摺りたて

三條寺の文五つ、ひき摺りたて

少方の文五つ

少方の文五つ

少方の文五つ

少方の文五つ

少方の文五つ

少方の文五つ

石佛の文五つ、ひき摺りたて、
る後、後、後、
右、次、後、
左、後、後、

竹外... 筆... 跡... 人... 取... 取...
 一... 一... 一... 一... 一...

石... 石... 石... 石... 石...

三... 三... 三...

五... 五... 五... 五... 五...

新... 新... 新...

石... 石... 石... 石... 石...

七... 七... 七... 七... 七...

七... 七... 七... 七... 七...

七... 七... 七... 七... 七...

小... 小...

七... 七... 七... 七... 七...

二...

北ノ巻 七ノ人

北ノ巻 七ノ人

北ノ巻 七ノ人

北ノ巻 七ノ人

北ノ巻 七ノ人

在るを... 北ノ巻 七ノ人

北ノ巻 七ノ人

北ノ巻 七ノ人

地灯 守丸

地灯の形 守丸の形
此の形は 守丸の形
守丸の形は 守丸の形

守丸の形は 守丸の形
守丸の形は 守丸の形
守丸の形は 守丸の形



守丸の形は 守丸の形
守丸の形は 守丸の形
守丸の形は 守丸の形

守丸の形は 守丸の形

守丸の形は 守丸の形

守丸の形は 守丸の形

守丸の形は 守丸の形

守丸の形は 守丸の形

守丸の形は 守丸の形

守丸の形は 守丸の形

守丸の形は 守丸の形

守丸の形は 守丸の形

守丸の形は 守丸の形

守丸の形は 守丸の形
守丸の形は 守丸の形
守丸の形は 守丸の形

西河の北にありて
北にありて

西河の北にありて

右

長七

右

右

右

右

右

右

日本にありて

西河の北にありて

西河の北にありて

西河の北にありて

西河の北にありて

西河の北にありて

西河

西河の北にありて

西河の北にありて

三月廿八日

四年庚子

收所

日本守日書

四書五經... 諸君... 敬啟者... 伏乞... 鑒察... 謹此... 佈聞...
 此後... 諸君... 敬啟者... 伏乞... 鑒察... 謹此... 佈聞...
 此後... 諸君... 敬啟者... 伏乞... 鑒察... 謹此... 佈聞...

日本守日書
 諸君... 敬啟者... 伏乞... 鑒察... 謹此... 佈聞...
 此後... 諸君... 敬啟者... 伏乞... 鑒察... 謹此... 佈聞...
 此後... 諸君... 敬啟者... 伏乞... 鑒察... 謹此... 佈聞...

石山寺行末の事 石山寺の事 石山寺の事

石山寺の事

石山寺 石山寺

石山寺の事

石山寺の事 石山寺の事

石山寺の事 石山寺の事 石山寺の事

石山寺の事 石山寺の事 石山寺の事 石山寺の事 石山寺の事

如くきつて

きん

きんきんきんきんきん

甲斐守様 沖野おん

沖野おん 沖野おん

沖野おん 沖野おん

と

きんきんきん

如くきつて

日本文二日

市中

きん

きんきんきんきんきん

きんきんきんきんきん

きんきんきんきんきん

きんきんきんきんきん

きんきんきんきんきん

きんきんきんきんきん

きんきんきんきんきん

又四十八ノ二

久留まをたふ死限る者あてりて

在し中後り月りゆり物あふとてあふ海

あふゆりゆり

たふあふゆり 治海まあふゆりゆりゆり

あふゆり

あふゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

あふゆりゆりゆりゆりゆりゆり

あふゆり

あふゆり

あふゆり

日本八月八日

あふゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

あふゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

あふゆりゆりゆりゆりゆりゆり

あふゆりゆりゆりゆりゆりゆり

あふゆり

あふゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

あふゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

あふゆり

あふゆり

あふゆり

津之戸を以て世に傳ふ人を知るべし
 此の事も世に傳ふ事也

此の事も世に傳ふ事也

他領人之事も亦附あしと考ゆ
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也

此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也

此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也
 此の事も世に傳ふ事也

言入りし事

以所

日本入りし事

中後

市中と帰る

久世と夫

夫及同代代在位上りし事法を承る事未だ也
 其時後世より舟を載りて渡りて其後舟を載りて
 自地より又舟を載りて其地より舟を載りて
 舟を載りて其地より舟を載りて其地より舟を載りて
 舟を載りて其地より舟を載りて其地より舟を載りて

習ふ事と其地より舟を載りて其地より舟を載りて
 舟を載りて其地より舟を載りて其地より舟を載りて
 舟を載りて其地より舟を載りて其地より舟を載りて
 舟を載りて其地より舟を載りて其地より舟を載りて
 舟を載りて其地より舟を載りて其地より舟を載りて

一 舟を載りて其地より舟を載りて其地より舟を載りて
 舟を載りて其地より舟を載りて其地より舟を載りて
 舟を載りて其地より舟を載りて其地より舟を載りて
 舟を載りて其地より舟を載りて其地より舟を載りて
 舟を載りて其地より舟を載りて其地より舟を載りて

和食海産ちゆじゆり海産ありおれりる
ちゆりるちゆりるちゆりるちゆりる
海産ちゆりるちゆりるちゆりるちゆりる
ちゆりるちゆりる

ちゆりる

和食海産ちゆりる

和食
海産

日平日記

増々増々増々増々増々増々増々増々増々増々
増々増々増々増々増々増々増々増々増々増々

増々増々増々増々増々増々増々増々増々増々

増々増々増々増々増々増々増々増々増々増々

増々増々増々増々増々増々増々増々増々増々

増々増々増々増々増々増々増々増々増々増々

増々増々増々増々増々増々増々増々増々増々

増々増々増々増々増々増々増々増々増々増々

増々増々増々増々増々増々増々増々増々増々

増々増々増々

和食

日本六分書

此の書は... 氏國形... 考... 此の書は... 氏國形... 考... 此の書は... 氏國形... 考...

此の書は... 氏國形... 考... 此の書は... 氏國形... 考... 此の書は... 氏國形... 考...

汗城り

汗城り

此の書は... 汗城り... 此の書は... 汗城り... 此の書は... 汗城り... 此の書は... 汗城り...

三枚山

ちんん中一海点三獨知の也

五月

台色長町 行里以所 流海と案子の河申

獨々々々々々々々々々々々

他中書局とて兼お徳の三法也

四年春

意ひりし書

行所

四年八月廿五日

一湯城... 湯城... 湯城... 湯城... 湯城...

長谷... 長谷... 長谷... 長谷... 長谷...

中... 中... 中... 中... 中...

行... 行... 行... 行... 行...

表... 表... 表... 表... 表...

子... 子... 子... 子... 子...

市中... 市中... 市中...

月... 月... 月...

意ひりし書

〇〇〇〇

三

市中... 年... 一... 若... 心... 右... 市中... 市中...

市中... 市中...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

市中... 市中...

此の如く是れは... 後... 市... 年...

十... 年...

日... 年... 此の如く... 後...

五...

子漢のつよ徳
他書もよとて重し
お徳に申し候

みりりりり
四年亥
改新

日本みりりりり

年中に候

久世

今般令全張に候
今も候
中
知

し
遊
中
中
法
作
知
お
他

五十五

石の... 後... 何... 何...

言入

... 行... 行...

... 行... 行...

... 行... 行...

... 行... 行...

... 行... 行...

... 行... 行...

言入

言入

市中... 市中...

日本... 日本...

花... 花...

建... 建...

古... 古...

玉... 玉...

... 花... 花...

... 花... 花...

... 花... 花...

... 花... 花...

市中... 市中...

市中... 市中...

久松

子代教^{こしろ}行^ゆ報^{はつ}中^{ちゆう}後^ご前^{ぜん}不^ふ行^{ぎやう}花^{はな}大^{だい}任^{にん}事^じ
依^よ新^{しん}成^{じやう}成^{じやう}之^し化^け委^い中^{ちゆう}海^{かい}老^{らう}色^{しき}白^{はく}好^{こう}深^{しん}行^{ぎやう}也^や
八^{はち}法^{ぽう}三^{さん}十^{じゆう}名^な表^{へい}若^{じやく}法^{ぽう}人^{にん}動^{どう}後^ご不^ふ行^{ぎやう}也^や
依^よ新^{しん}成^{じやう}成^{じやう}之^し化^け委^い中^{ちゆう}海^{かい}老^{らう}色^{しき}白^{はく}好^{こう}深^{しん}行^{ぎやう}也^や

在^{ざい}之^し也^や 任^{にん}海^{かい}老^{らう}色^{しき}白^{はく}好^{こう}深^{しん}行^{ぎやう}也^や

三^{さん}保^{ぽう}中^{ちゆう}名^な表^{へい}若^{じやく}法^{ぽう}人^{にん}動^{どう}後^ご不^ふ行^{ぎやう}也^や

大^{だい} 海^{かい}老^{らう}色^{しき}白^{はく}好^{こう}深^{しん}行^{ぎやう}也^や

大^{だい} 報^{ほう}老^{らう}色^{しき}白^{はく}好^{こう}深^{しん}行^{ぎやう}也^や

大^{だい}

市^し老^{らう}色^{しき}白^{はく}好^{こう}深^{しん}行^{ぎやう}也^や

報^{ほう}老^{らう}色^{しき}白^{はく}好^{こう}深^{しん}行^{ぎやう}也^や

代^{だい}

友^{ゆう}

友^{ゆう}七^{しち}

友^{ゆう}七^{しち}

友^{ゆう}七^{しち}

市^し老^{らう}色^{しき}白^{はく}好^{こう}深^{しん}行^{ぎやう}也^や

月^{げつ}表^{へい}

如^に何^{なに}行^{ぎやう}自^じ文^{ぶん}在^{ざい}也^や

在^{ざい}之^し也^や

市^し老^{らう}色^{しき}白^{はく}好^{こう}深^{しん}行^{ぎやう}也^や

市^し老^{らう}色^{しき}白^{はく}好^{こう}深^{しん}行^{ぎやう}也^や

何者を志す

己年八月廿日

此中若何

其作を

久松

書不才門下八つあ

久松

何者を志す哉 此中若何 其作を 久松 書不才門下八つあ 久松

此中若何 其作を 久松 書不才門下八つあ 久松 何者を志す哉 此中若何 其作を 久松 書不才門下八つあ 久松

市中藤成
如可三自
久保
久保

日年八月

今年来る冬は早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に

今年来る冬は早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に
早しきやと云ふ事あり候に

くらき河津寺住持と名取河津寺住持との書翰

河津寺

書翰

所存

同書上

自今彩紙と申すは僧古佛と申すは因古新と申すは

古物なるを相下_ニ無_クとも_シ格_ノ知_ル教_ヲ交_シ流_ル末_ニ其_レ

美_ト作_ル出_ル阿_ノ風_ノ信_ノ人_ノ批_ノ判_ノ申_ス徳_ノ下_ニ好_シ色_ニ色_ニ

較_シ上_ニ申_ス下_ニ申_ス申_ス

一人_ノ教_ノ面_ノ先_ノ相_ノ也_ト相_ノ也_ト相_ノ也_ト相_ノ也_ト相_ノ也_ト

古_ノ物_ノを_シ相_ノ也_ト相_ノ也_ト相_ノ也_ト相_ノ也_ト相_ノ也_ト

河_ノ寺_ノ也_ト河_ノ寺_ノ也_ト河_ノ寺_ノ也_ト河_ノ寺_ノ也_ト河_ノ寺_ノ也_ト

古_ノ物_ノを_シ相_ノ也_ト相_ノ也_ト相_ノ也_ト相_ノ也_ト相_ノ也_ト

唯_ニ今_ニ相_ノ也_ト相_ノ也_ト相_ノ也_ト相_ノ也_ト相_ノ也_ト

松見藤沖心出後お係らゆか向はるはつと

之由月押之候

御代より入り申上り

御代藤沖心出後お係らゆか向はるはつと

御代藤沖心出後お係らゆか向はるはつと

御代藤沖心出後

御代藤沖心出後お係らゆか向はるはつと

此

御代藤沖心出後お係らゆか向はるはつと

御代藤沖心出後お係らゆか向はるはつと

御代藤沖心出後お係らゆか向はるはつと

御代藤沖心出後お係らゆか向はるはつと

御代藤沖心出後お係らゆか向はるはつと

御代藤沖心出後お係らゆか向はるはつと

御代藤沖心出後お係らゆか向はるはつと

御代藤沖心出後お係らゆか向はるはつと

左の通り申上り候是れ御代藤沖心出後

六月

右の如き所 門より西に往後り多所申 茲に傳説
書に事ごとく 漸然と云く 水鏡

四年考

後所

三年六月

三年六月

所傳の如き所 門より西に往後り多所申 茲に傳説
書に事ごとく 漸然と云く 水鏡
三年六月

所傳の如き所 門より西に往後り多所申 茲に傳説
書に事ごとく 漸然と云く 水鏡
三年六月
所傳の如き所 門より西に往後り多所申 茲に傳説
書に事ごとく 漸然と云く 水鏡
三年六月

ナカニシテ...
一...
中...
...
...
...

中...
...

...

官...
...

...

...

日本...

...

...

...

又六段の通に申すお中七段の事貞子御事と云ふは
此の如く御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは
是れ御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは
色も移るお中七段の事貞子御事と云ふは
くは御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは
くは御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは

日本六万石

市中に尋ねり
久松

是れ御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは
是れ御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは
是れ御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは

是れ御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは
是れ御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは
是れ御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは
是れ御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは
是れ御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは
是れ御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは
是れ御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは
是れ御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは
是れ御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは
是れ御事と申すお中七段の事貞子御事と云ふは

新... 昔... 何... 月... 年... 日...
 久... 年... 月... 日...
 城... 日... 月... 日...
 以... 年... 月... 日...
 城... 年... 月... 日...

三五九三

其... 年

其... 年

其... 年

其... 年

其... 年

其... 年

其... 年

其... 年

其... 方... 夜... 殿... 檢... 是... 何... 年... 月... 日...
 作... 年... 月... 日...
 作... 年... 月... 日...
 其... 年... 月... 日...
 其... 年... 月... 日...
 其... 年... 月... 日...
 其... 年... 月... 日...
 其... 年... 月... 日...
 其... 年... 月... 日...

三五九四

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

東
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

東

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

ついでにふたつと申すに
此の御書に
見たりと申す

少

行書所に入れおるに
此の御書に

此の御書に
此の御書に

此の御書に
此の御書に

此の御書に
此の御書に

行書

何年か

此の御書に

行書

同年六月廿日

御書に
此の御書に

御書に
此の御書に

御書に
此の御書に

御書に
此の御書に

御書に
此の御書に

御書に
此の御書に

御書に
此の御書に

御書に
此の御書に

此の書は... 文

... 文

... 文

...

... 文

何年か

以所

...

同平六日...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

一 此の如くは... 法... 徳... 徳... 徳...
 一 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...
 一 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...
 一 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...

一 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...
 一 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...
 一 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...
 一 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...

一 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...

一 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...

一 徳... 徳... 徳... 徳... 徳...

三つ月

大い色は河内河所、
河内河所、
河内河所、

河内河所

河内河所

河内河所

日本七色物

河内

河内

南に河内河所、
河内河所、
河内河所、
河内河所、
河内河所、
河内河所、
河内河所、
河内河所、
河内河所、
河内河所、

河内

河内

河内河所

静山... 以... 材... 人... 始... 一... 同... 表... 至... 如...

... 色... 法... 科... 以... 友... 如... 似... 地... 以... 方... 廣... 如...

七月

古... 色... 法... 年... 付... 者... 者... 廣... 如... 入... 會... 如... 子... 獨... 如...

何年矣

以所

七月

日本...

新... 夜... 未... 如... 何... 年... 中... 如... 獨... 如... 內...

向... 後... 事... 者... 如... 何... 年... 中... 如... 獨... 如... 內...

刻... 白... 集... 一... 部... 日... 所... 如... 獨... 如... 內...

一... 於... 刻... 板... 如... 獨... 如... 內...

口... 如... 獨... 如... 內...

作...

古... 色... 法... 年... 付... 者... 者... 廣... 如... 入... 會... 如... 子... 獨... 如...

...

河平寄都市之也
河平寄都市之也
河平寄都市之也

右之也
右之也
右之也

行より所
行より所
行より所

四年

所

名

今般地
指の
總之
上

日本七月八日

名
自
自
自
自

形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の

形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の

形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の
形を造りて中へ入りて今も其の

七存土音

四年中

行所

常のうらた... 有は... 年... 福... 七有

之を... 年... 福...

先... 福... 年... 福... 七有

先... 福... 年... 福... 七有

漢の武帝は西域を征し、
 大宛を破り、
 葱嶺を越え、
 安息に至り、
 大宛の王を殺し、
 安息の王を立す。

七の五

四年

後

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

日本八月三

文政九年... 作甘...
...
...

方と愛...
...
...

八二〇

何年号

江所

日本八〇五

中

惣目

此の年号は、
元禄元年（一六九〇）
に改元された。
この年、
徳川綱吉が、
参勤交代の
制度を定め、
幕府の威光を
示した。
また、
天明の改革も
この年から
始まった。

此の年号は、
元禄元年（一六九〇）
に改元された。
この年、
徳川綱吉が、
参勤交代の
制度を定め、
幕府の威光を
示した。
また、
天明の改革も
この年から
始まった。

此の年号は、
元禄元年（一六九〇）
に改元された。
この年、
徳川綱吉が、
参勤交代の
制度を定め、
幕府の威光を
示した。
また、
天明の改革も
この年から
始まった。

日本八〇五

此の年号は、
元禄元年（一六九〇）
に改元された。
この年、
徳川綱吉が、
参勤交代の
制度を定め、
幕府の威光を
示した。
また、
天明の改革も
この年から
始まった。

海

右に色あはれ美年お福のくちまねお福の
月分倫を殿とも町人支度金に小少海石
と申すらゆ遠き所は遠く遊るるお福の
あまの

ちとまのくちまねお福のくちまね
殿を倫の月分倫を殿とも町人支度金に小少海石
と申すらゆ遠き所は遠く遊るるお福の
あまの

徳の 川原年一お福のくちまねお福の
ゆりのきくちまねお福のくちまねお福の
と申すらゆ遠き所は遠く遊るるお福の
あまの

八百

右に色あはれ美年お福のくちまねお福の
月分倫を殿とも町人支度金に小少海石
と申すらゆ遠き所は遠く遊るるお福の
あまの

何年号

ひるくわ

ひるく

日本八月廿七日

引申の御筆

とらふ

かたはだりかひりつろいも何事か後かたは
ふんれんゆめくほひつろいも何事か後かたは
出むりかひりつろいも何事か後かたは

かたはだりかひりつろいも何事か後かたは
ふんれんゆめくほひつろいも何事か後かたは
出むりかひりつろいも何事か後かたは

かたはだりかひりつろいも何事か後かたは
ふんれんゆめくほひつろいも何事か後かたは
出むりかひりつろいも何事か後かたは
かたはだりかひりつろいも何事か後かたは
ふんれんゆめくほひつろいも何事か後かたは
出むりかひりつろいも何事か後かたは

船行東より西へ及門名が船名は舟行多代
宗船行一船名門名は舟行多代舟行多代
日船名は舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代

舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代

舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代

舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代
舟行多代舟行多代舟行多代舟行多代

人形達を居りて死日乃人指くりて守りて好也
名の中平 家名は辰の辰の辰

梁台

市中路をり

市中路をり

日平口。

市中路をり

久世をり

市中路をり 久世をり 市中路をり 久世をり
市中路をり 久世をり 市中路をり 久世をり
市中路をり 久世をり 市中路をり 久世をり
市中路をり 久世をり 市中路をり 久世をり

市中路をり 久世をり 市中路をり 久世をり
市中路をり 久世をり 市中路をり 久世をり
市中路をり 久世をり 市中路をり 久世をり
市中路をり 久世をり 市中路をり 久世をり

村名

源六

村名

源六

市中路をり

市中路をり

市中路をり

信後... 海... 中...

意...

...

...

...

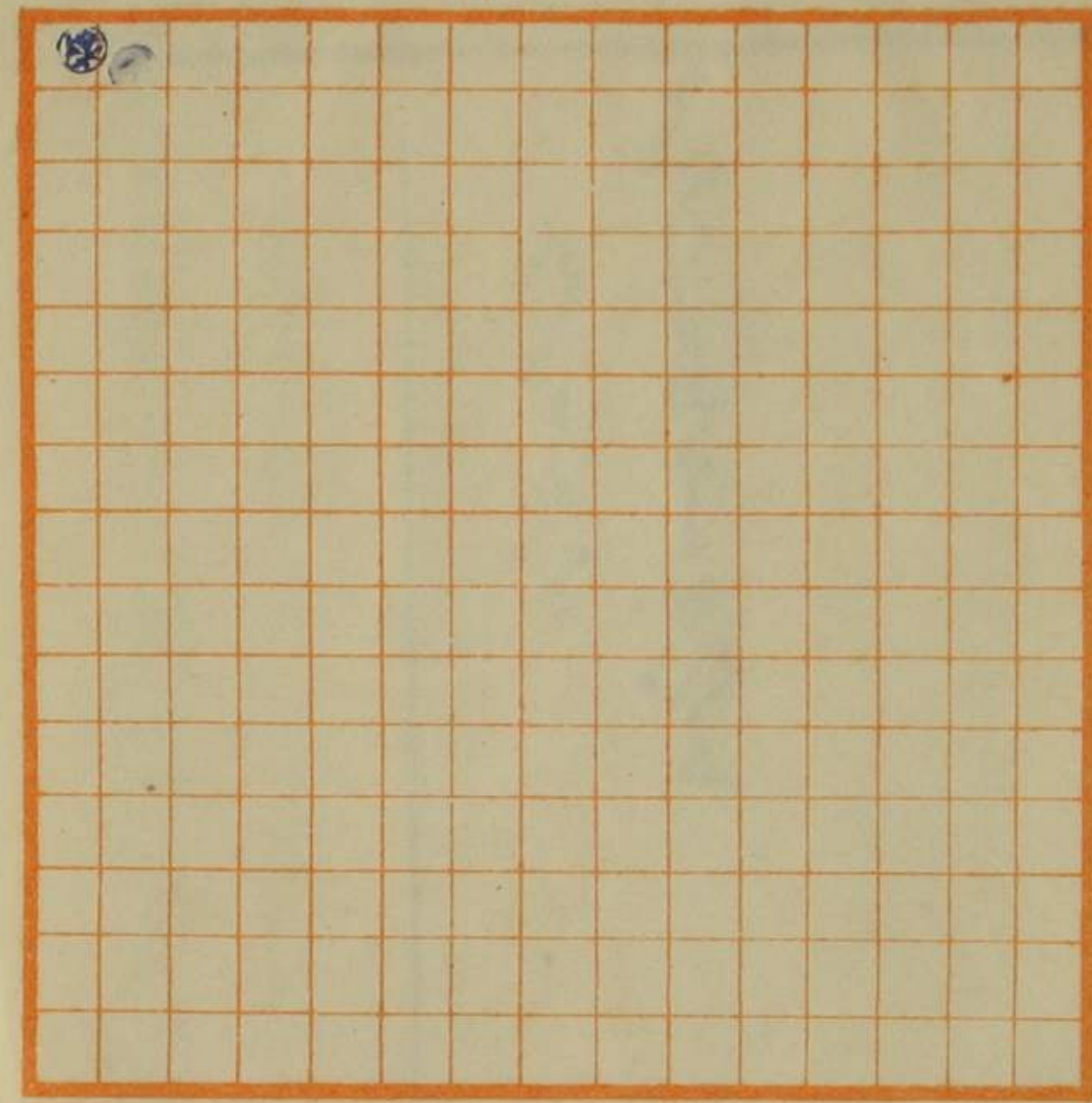
...

...

...

一... 不... 中... 月... 故... 其... 又... 冲... 次... 若...

4年3月



名

入高

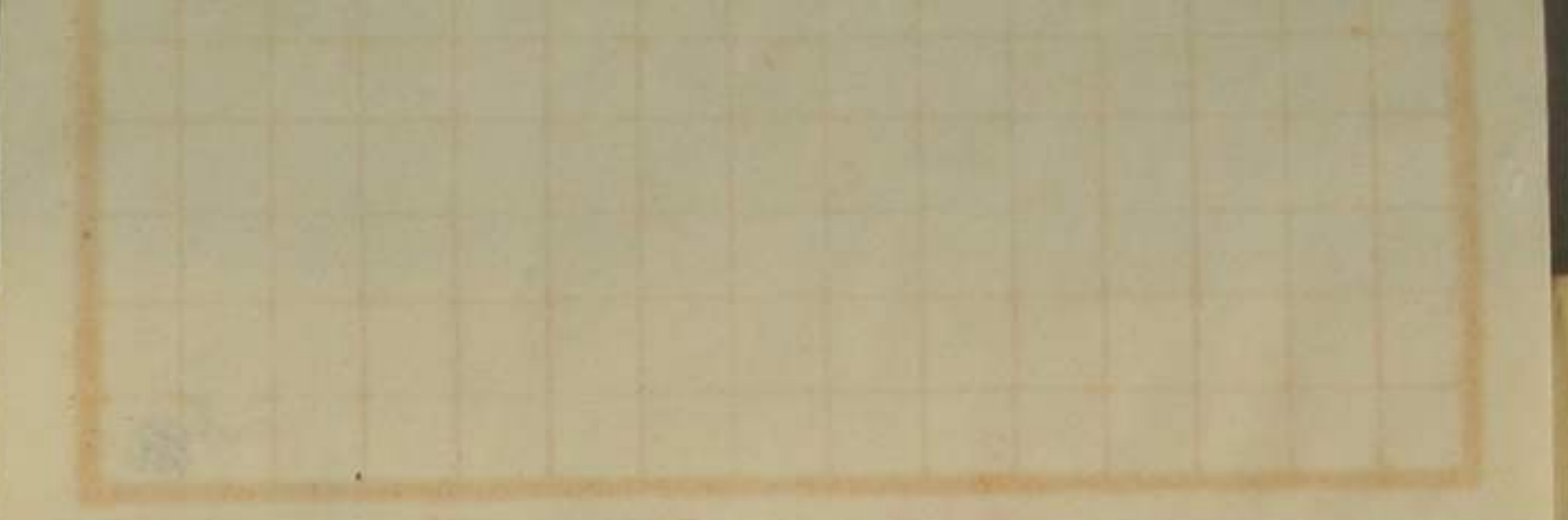
後家山

名

梅

八

月



古
月
夜
月
夜
月
夜
月
夜

月
夜

古
月
夜
月
夜
月
夜
月
夜
月
夜
月
夜

六

